

科目名	現代の国語			履修学年	第1学年
				履修形態	必修
				履修単位	2単位
使用教科書 (出版社)	「新編現代の国語」(東京書籍)				
使用教材 (出版社)	「新編現代の国語 学習課題ノート」(東京書籍) 書いて覚える漢字練習ノート(株式会社啓隆社)				
学習の目標					
<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>					
教科担当者から					
<p>国語による表現と理解の能力の育成を基本とし、伝え合う力を高めることがこの科目の中心的なねらいとなる。(伝え合う力:人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら、言語を通して円滑に相互伝達、相互理解を進めていく能力)</p> <p>また、心情を豊かにしたり、言語感覚を磨くことで、他人を思いやる心や感動する心、そして言葉の適切さや美しさについての感覚をはぐくむ。</p>					
評価の観点・方法・割合					
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
規準	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
評価方法	○ 重視するところ				
課題の取組み状況	○	○	○		
提出物	○	○	○		
定期考査	○	○			
観点別学習評価基準 A: 十分満足できる状況 B: 概ね満足できる状況 C: 努力を要する状況					
観点別学習評価	A	B		C	
評価割合(%)	100~85	84~30		29~0	
観点別評価					
5	4	3	2	1	
85%以上	84~70%	69~45%	44~30%	29%以下	

学習内容及び評価基準							
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			学習のねらい（評価のポイント）	時間
			知	思	主		
前期	4	1 自己を見つめる		○	○	筆者独自の考え方を読み取り、人それぞれが持つ意識の世界に思いをはせる。	B 8
				○	○	筆者の少年時代の体験について書かれた文章を読み、自分に当てはめて考える。	
				○	○	情報を整理し、内容や構成に注意して話す。	
	5～6	2 他者に出会う	○	○	情報と想像力の関係を論じた文章を読み、意見の根拠を的確に理解して筆者の主張をつかむ。	C 5	
			○	○	評論の書かれ方を理解し、読み方を知る。		
			○	○	情報を集めて検討し、構成を工夫して意見文を書く。		
			前期中間考査	○	○		B1
	7～8	3 言葉と生活 1	○		○	目的や相手に合った分かりやすい説明をする。	A 10
				○	○	複数の文章を読み比べ、自分の考えを深める。	
			○	○	○	図表や画像から必要な情報を読み取る。	
9	4 視野を広げる	○	○	○	身近な植物を観察してきた成果を述べる文章を読み、提示された新しい視点について理解する。	B 8	
			○	○	色について論じた文章を、具体例の役割を押さえながら読み、筆者の価値観と主張をつかむ。		
		○	○	○	話し合いの進め方を工夫し、考えを深める。		
		前期期末考査	○	○		B1	
後期	10	5 社会と関わる	○	○	○	自分の道を切り開いた筆者の体験談から、仕事に対する思いを読み取る。	B 12
				○	○	読書を通じて将来の職業や働き方を考える。	
			○	○	○	調べたことを整理して、考えたことを分かりやすくまとめる。	
			後期中間考査	○	○		B1
	11～12	6 言葉と生活 2	○	○	○	発想を広げてアイデアを整理し、まとめる。	B 8
			○	○	○	相手意識を持って言葉を選ぶ。	
			○	○	○	記事の読み取りを踏まえ、根拠を明確にして意見をまとめる。	
	1	7 世界とつながる		○	○	「美」という抽象的な題材について論じた文章を読み、その展開を論理的に捉え、筆者の価値観を理解する。	A 10
			○	○	○	出来事の順序に着目しながら、戦時下の人々の状況と、作品に一貫する筆者の思いを読み取る。	
	2～3	8 未来に目を向ける		○	○	人間の心・意識について体験を踏まえつつ考察する文章を読み、人間への認識を深める。	C 5
○			○	○	推論の仕方を理解し、日常で使えるようになる。		
○			○	○	「自立」の在り方について考察する文章を読み、自分の考えを持ち、視野を広げる。		
○			○	○	発表の仕方や、話の聞き方を工夫する。		
		学年末考査	○	○		B1	

指導領域 A 話すこと・聞くこと
 指導領域 B 書くこと
 指導領域 C 読むこと
 合計時数

20時間
 40時間
 10時間
 70時間

科目名	言語文化			履修学年	第1学年
				履修形態	必修
				履修単位	2単位
使用教科書 (出版社)	東京書籍「新編言語文化」				
使用教材 (出版社)	新編言語文化学習課題ノート(準拠ノート)				
学習の目標					
<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>					
教科担当者から					
<p>国語による表現と理解の能力の育成を基本とし、伝え合う力を高めることがこの科目の中心的なねらいとなる。(伝え合う力:人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら、言語を通して円滑に相互伝達、相互理解を進めていく能力)</p> <p>また、心情を豊かにしたり、言語感覚を磨くことで、他人を思いやる心や感動する心、そして言葉の適切さや美しさについての感覚をはぐくむ。</p>					
評価の観点・方法・割合					
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
規準	<ul style="list-style-type: none"> 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。 	<p>言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解したり、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。</p>		
評価方法	○ 重視するところ				
課題の取組み状況	○	○	○		
提出物	○	○	○		
定期考査	○	○			
観点別学習評価基準 A: 十分満足できる状況 B: 概ね満足できる状況 C: 努力を要する状況					
観点別学習評価	A	B		C	
評価割合(%)	100~85	84~30		29~0	
観点別評価					
5	4	3	2	1	
85%以上	84~70%	69~45%	44~30%	29%以下	

学習内容及び評価基準								
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			学習のねらい（評価のポイント）	時間	
			知	思	主			
前期	4	現代文編 1 随筆 生きるよろこび		○	○	言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。	B近 2	
				○	○	作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。		
	5	古文編 1 古文入門 古文の世界へ 漢文編 1 漢文入門 漢文に親しむ		○	○	我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。	B古 4	
				○	○	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。	B古 4	
				○	○	言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。	B古 4	
		前期中間考査		○	○		A1	
	6	現代文編 2 小説 1 触れ合う心		○	○	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。	B近 2	
	7	古文編 2 随筆 日々の思い		○	○	文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。	B古 6	
					○	○		古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。
				○	○	言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。		
8	現代文編 3 詩歌 命をうたう		○	○	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。	B近 3		
9			○	○	進んで短歌の特徴や表現効果を理解し、学習課題に沿って、それぞれの歌にこめられた情景や心情を読み取るうとしている。			
	前期期末考査		○	○		A1		
後期	10	現代文編 3 詩歌 命をうたう		○	○	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。	B近 3	
					○	○		進んでリズムや形式に注意して詩を読み味わい、学習課題に沿って、作者の物事に対する感じ方について考えようとしている。
		後期中間考査		○	○		A1	
	11	古文編 3 詩歌 うたの心		○	○	言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。	B近 2	
					○	○	自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。	A 2
		漢文編 2 漢詩 漢詩を味わう		○	○	古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。	B古 4	
					○	○	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。	A 2
	12	現代文編 4 小説 2 葛藤する心 古文編 4 物語 古人の生き方		○	○	言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。	B近 4	
				○	○	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	B古 4	
	1	漢文編 3 論語 論語のことば		○	○	文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。	B古 4	
					○	○	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	B古 4
	2	現代文編 5 小説 3 現実の向こう側 古文編 5 紀行 旅の心		○	○	我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	B近 4	
					○	○	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。	B古 3
	3	漢文編 4 史話 史話を楽しむ			○	○	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。	B古 3
				○	○	集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。	A 2	
	学年末考査		○	○		A1		

指導領域	A 書くこと	10 時間
指導領域	B 読むこと	
	古典	40 時間
	近代以降の文章	20 時間
	合計時数	70 時間

科目名	地理総合		履修学年	第1学年
			履修形態	必修
			履修単位	2単位
使用教科書 (出版社)	地理総合(東京書籍) 新詳高等地図(帝国書院)			
使用教材 (出版社)	地理総合ワークノート(東京書籍)			
学習の目標				
<p>①現代世界の地理的事象を系統地理的に考察し、地理的な課題の解決に向けて構想する力や、考察、構想したことを効果的に説明し、それらを基に議論する力を養う。</p> <p>②地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。</p> <p>③地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きるための自覚と資質を養う。</p>				
教科担当者から				
<p>英語を学べば世界の人と会話ができる。家庭科を学べば生きる術と知識が得られる。地歴公民科の場合はどうでしょうか。担当者は「今、いったいこの世界の何が問題なのか」を知ることができるという魅力がある、と考えます。得られるものは、すぐに役立つ解決の「方法」ではないかもしれませんが。しかし、この未完成で発展途上の人間社会において、世界の人々を苦しめるたくさんの問題はいったいなぜ起こってしまったのか。私たちは、この世界と私たちの暮らしを、ほんの少しでも良くするために、何をしていくべきなのか。地理総合は、世界各地の自然と社会の様子をみながら、そのもとでつくられてきたこの世界の姿を明らかにしていく科目です。ここから、世界を見渡す力を養ってほしいと思います。</p>				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
規準	<p>○地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解している。</p> <p>○地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。</p>	<p>○地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。</p>	<p>○地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にここで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p> <p>○多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚が深まっている。</p>	
評価方法	○ 重視するところ			
学習の状況の観察			○	
課題の取り組み		○	○	
提出物	○		○	
定期考査	○	○		
観点別学習評価基準 A：十分満足できる状況 B：概ね満足できる状況 C：努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B		C
評価割合(%)	100～85	84～30		29～0
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準

学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			学習のねらい（評価のポイント）	時間
			知	思	主		
前期	4	オリエンテーション			○	高校の地理学習の動機付けと以後の学習に必要な地理学習の基本的な技能や学び方を身につける。	1
	4	第1編 地図や地理情報システムでとらえる現代世界 第1章 私たちが暮らす世界	○			地軸の傾きや自転・公転による影響を理解する。	6
			○	○		地球上には常に昼と夜が存在することを理解し、時差の影響やそれに対する工夫を考える。	
			○			地図にはさまざまな種類が存在することについて理解する。	
				○	○	地球を平面の地図では正確に表現できないことを理解し、地図の種類に応じた用途の多様性を考える。	
			○			日本の位置と領域について理解する。	
			○	○		排他的経済水域について理解し、その重要性について考える。	
	5	第2章 地図や地理情報システムの役割 第3章 資料から読み取る現代世界	○			私たちの生活にさまざまな地図が利用されていることを理解する。	8
				○		主題図の表現方法の特徴を理解し、用途に応じてどのように使い分けるのかを考察する。	
				○	○	地理情報システム（GIS）が幅広い分野で使われていることについて理解し、私たちの生活への影響を考える。	
			○	○		交通手段の多様性とその長所・短所について理解し、交通手段の発達による生活の変化を考える。	
			○	○		通信情報技術（ICT）の発達について理解し、通信網の発達による生活の変化と生じた課題について考える。	
			○			世界の貿易とさまざまな地域経済圏について理解する。	
		前期中間考査	○	○			1
	6,7	第2編 国際理解と国際協力 第1章 人々の生活文化と多様な地理的環境 1節 生活文化の多様性と国際理解 2節 生活文化と自然環境①地形	○			地域によって文化が異なる理由について理解する。	10
			○			世界の宗教の分布や、宗教ごとに特徴的な生活習慣や規範があることを理解する。	
			○			山地におけるさまざまな暮らしの工夫について理解する。	
			○			河川がつくる平野の小地形について理解する。	
○			○		宅地化による伝統的な土地利用の変化が、どのような影響をもたらしているかを理解する。		
○					さまざまな海岸の地形とその利用について理解する。		
8,9	3節 生活文化と自然環境②気候	○			大気の大循環によって生じる気圧帯について理解する。	9	
		○	○		気温や降水量に地域差が生じる原因を理解し、それらが衣食住に与える影響を考える。		
		○	○		熱帯、乾燥帯、温帯、亜寒帯、寒帯の各気候区における気温・降水量、風などの気候要素の特徴について理解する。		
			○	○	熱帯、乾燥帯、温帯、亜寒帯、寒帯における土壌や植生の特徴を理解し、人々の生活や文化に与える影響を考える。		
		○	○				
		○	○				
	前期期末考査	○	○			1	
後期	10	4節 生活文化と産業	○			自然環境、社会環境の面から、食生活の地域差について理解する。	8
			○			労働集約的な工業の立地が移動する理由を理解する。	
				○		新興工業国と先進国との工業の違いが生じる理由について理解する。	
				○		商業の立地の違いについて、インターネットの普及により、商業にどのような変化が生じたのかを理解する。	
			○			通信産業の発展による世界の変化、産業の情報化について理解する。	
			○	○		情報化社会における働き方について考える。	
	11	第2章 さまざまな地球的課題と国際協力 1節 地球環境問題 2節 資源・エネルギー問題 3節 人口問題	○	○		生産・消費活動により環境問題が発生することを理解し、解決に向けた取り組みを考える。	8
			○	○	○	森林の減少や砂漠化が人間の活動によって引き起こされていることを理解し、改善に向けた取り組みを考える。	
			○	○	○	新興国のエネルギー需要の増加を理解し、資源をめぐる対立が生じる要因を考える。	
				○		再生可能エネルギーへの関心が高まった背景を理解し、再生可能エネルギーの割合が拡大しない要因を考える。	
			○	○		発展途上国が抱える人口問題を理解し、その要因・影響を考える。	
			○	○		先進国において少子高齢化が進む背景とその影響について理解する。	
		○	○		少子高齢化対策として先進国で行われている取り組みを理解し、その成果や課題を考える。		
		後期中間考査	○	○			1
	12,1	4節 食料問題 5節 居住・都市問題 6節 民族問題 7節 持続可能な社会の実現をめざして	○	○		食料問題が生じる背景について理解する。	8
			○			発展途上国の大都市における生活や都市環境の変化から居住問題について理解する。	
			○			先進国の都市化と郊外化、そして都市再開発までの動きとそれぞれの背景について理解する。	
			○	○		ヨーロッパで起こった難民危機を手がかりに、難民と民族問題について理解し、難民が発生する原因や、民族問題の背景について考える。	
○			○		地球規模で取り組むべき課題が、相互に関連しあっていることを理解する。		
			○	○	先進国と発展途上国の対立などの課題があることを理解し、持続可能な開発のための解決法を考える。		
2,3	第3編 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境の特色 2節 さまざまな自然災害と防災 第2章 生活圏の調査と地域の展望	○			日本の地形の特徴が河川や海岸の特徴にどのような影響を与えているかを理解する。	7	
		○			日本の春夏秋冬それぞれの季節を特徴づける天候・気候の要因を理解する。		
		○	○	○	過去の災害の記録が今後の災害の軽減につながることを理解し、ハザードマップを利用し、身近な地域の自然災害の可能性を読み取り組む。		
		○	○		季節によって発生しやすい気象災害とその特徴について理解し、要因・影響について考える。		
			○	○	これまでの災害の教訓を生かし、特に、自助・共助に関して、どのような対策を講じていくべきかを考える。		
		○	○		身近な地域の変遷を新旧地形図の読み取りなどから理解する。		
	防災学習		○	○		1	
	学年末考査	○	○			1	

科目名	歴史総合		履修学年	第1学年
			履修形態	必修
			履修単位	2単位
使用教科書 (出版社)	歴史総合 (東京書籍)			
使用教材 (出版社)	歴史総合ワークノート (東京書籍)			
学習の目標				
<p>①近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。</p> <p>②近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や特色を考察し、歴史に見られる課題とその解決を構想する力を養う。</p> <p>③よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。</p>				
教科担当者から				
<p>歴史は過去のことを学ぶ学問であると言われます。しかし一方で、過去を知るからこそ、「今、いったいこの世界の何が問題なのか」を知ることができるという魅力もあると思います。得られるものは、すぐに役立つ解決の方法ではないかもしれませんが。しかし、この未完成で発展途上の人間社会を見渡したときに、私たちや世界の人々を苦しめるたくさん問題は、いったいなぜ起こってしまったのか。私たちは、この世界と私たちの暮らしをほんの少しでも良いものにするために、何をしていくべきなのか。歴史総合は、近現代の時代を中心に学習しながら、この課題に取り組めます。ここから、我が国はもちろん、世界を見渡す力を養っていきましょう。</p>				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
規準	<p>○近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解している。</p> <p>○諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。</p>	<p>○近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりすることができる。</p> <p>○考察、構想したことを効果的に説明し、それらを基に議論することができる。</p>	<p>○近現代の歴史に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p> <p>○多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めている。</p>	
評価方法	○ 重視するところ			
学習の状況の観察				○
課題の取り組み		○		○
提出物	○			○
定期考査	○	○		
観点別学習評価基準 A：十分満足できる状況 B：概ね満足できる状況 C：努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B		C
評価割合 (%)	100～85	84～30		29～0
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準

学期	月	単元名/学習内容	評価の観点			学習のねらい(評価のポイント)	時間	
			知	思	主			
前期	4	オリエンテーション			○	高校の歴史学習の動機付けと以後の学習に必要な歴史学習の基本的な技能や学び方を身につける。	1	
	4~5	第1章 近代化と私たち 1節 近代化への問い 2節 アジアの繁栄と西洋近代の形成	○	○	○	交通と貿易、産業と人口、権利意識と政治参加や国民の義務、学校教育、労働と家族、移民などに関する資料を活用し、近代化に伴う生活や社会の変容について考察する。	10	
			○			18世紀のアジアの経済と社会を理解する。		
			○			世界市場の形成や近代社会の形成を理解する。		
				○		アジア諸国の動向を比較し、経済活動の特徴、地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係を考察して表現する。		
					○	欧米諸国を中心に世界の諸地域の動向を比較し、世界市場の形成や近代社会の形成を考察して表現する。		
			○	○	○	近代化の歴史に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組み、中学校までの学習も振り返りながら課題を追究する。		
	6~7	3節 世界の一体化と多様な近代化 4節 近代化と現代的な諸課題	○			立憲体制と国民国家の形成を理解する。	12	
			○			列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。		
				○		アジア諸国の動向を比較し、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容を考察し表現する。		
				○	アジア諸国の動向を比較し、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容を考察して表現する。			
				○	○	近代化の歴史に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組み、学習を振り返りながら課題を追究する。		
		○	○	○	自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点から、事象の背景や原因、結果や影響などを考察、表現し、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解する。			
		前期中間考査	○	○		1		
8~10	第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1節 国際秩序の変化や大衆化への問い 2節 第一次世界大戦と大衆社会	○	○	○	国際関係の緊密化、アメリカ合衆国とソヴィエト連邦の台頭、植民地の独立、大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化、生活様式の変化などに関する資料を活用し、国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について考察する。	11		
		○			第一次世界大戦の展開と大戦後の国際協調体制を理解する。			
		○			大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。			
			○		日本とその他の国の動向を比較し、日本とアジア、太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを考察して表現する。			
				○	○		第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連を考察して表現する。	
			○	○	国際秩序の変化や大衆化の歴史に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組み、学習を振り返りながら課題を追究する。			
		前期期末考査	○	○		1		
後期	10~11	3節 経済危機と第二次世界大戦 4節 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	○			国際協調体制の動揺を理解する。	11	
			○			第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。		
				○		日本とその他の国の動向を比較し、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを考察して表現する。		
					○	○		大戦の性格と惨禍、大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係を考察して表現する。
					○	○		国際秩序の変化や大衆化の歴史に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組み、学習を振り返りながら課題を追究する。
			○	○	○	自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点を基に、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して考察し、表現することを通して、現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解する。		
		後期中間考査	○	○		1		
11~12	第3章 グローバル化と私たち 1節 グローバル化への問い 2節 冷戦と世界経済	○	○	○	冷戦と国際関係、人と資本の移動、高度情報通信、食料と人口、資源・エネルギーと地球環境、感染症、多様な人々の共存などに関する資料を活用し、グローバル化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。	10		
		○			国際政治の変容を理解する。			
		○			世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解する。			
			○		日本とその他の国の動向を比較し、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを考察して表現する。			
				○	○		冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などを考察して表現する。	
			○	○	グローバル化の歴史に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組み、学習を振り返りながら課題を追究する。			
1~3	3節 世界秩序の変容と日本 4節 現代的な諸課題の形成と展望	○			市場経済の変容と課題を理解する。	10		
		○			冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。			
			○		日本とその他の国の動向を比較し、市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを考察して表現する。			
				○	○		日本とその他の国の動向を比較し、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを考察し、表現する。	
				○	○		グローバル化の歴史に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組み、学習を振り返りながら課題を追究する。	
			○	○	○	科目のまとめとして、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して考察し、表現することを通して、歴史的経緯を踏まえ、持続可能な社会に向けて現代的な諸課題の展望を探究する。		
		防災学習		○	○	1		
		学年末考査	○	○		1		

科目名	数学 I		履修学年	第 1 学年
			履修形態	必修
			履修単位	3 単位
使用教科書 (出版社)	改訂版 新編 数学 I (数研出版)			
使用教材 (出版社)	改訂版 3 TRIAL 数学 I (数研出版)			
学習の目標				
<p>数と式，図形と計量，2次関数及びデータの分析について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。</p>				
教科担当者から				
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書・ワークを中心に授業を進める。必ず，毎回持参すること。 ・板書をしっかりと取り，授業に集中すること。 ・授業中にプリントを配布するので，ファイルに整理し，提出できるようにしておくこと。 				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
規準	数と式，図形と計量，2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	命題の条件や結論に着目し，数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力，図形の構成要素間の関係に着目し，図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力，社会の事象などから設定した問題について，データの散らばりや変量間の関係などに着目し，適切な手法を選択して分析を行い，問題を解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。	
評価方法	○ 重視するところ			
学習の状況の観察				○
提出物		○		○
定期考査	○	○		
小テスト 単元テスト	○	○		
振り返りシート				○
観点別学習評価基準 A：十分満足できる状況 B：概ね満足できる状況 C：努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B		C
評価割合 (%)	100～85	84～30		29～0
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準

学期	月	単元名/学習内容	評価の観点			学習のねらい(評価のポイント)	時間	
			知	思	主			
前期	4	オリエンテーション			○		1	
		到達度テスト①					1	
		1章 数と式						
		1節 式の計算						
		1 多項式の加法と減法	○			式に関する用語を理解している。多項式の加法、減法の計算ができる。	2	
		2 多項式の乗法	○			指数法則や展開の公式を用いて、多項式の乗法の計算ができる。	2	
		3 因数分解	○	○		因数分解の公式を利用できる。	3	
		補充問題、小テスト①	○	○	○		1	
		2節 実数						
		4 実数	○			実数の分類について理解している。	1	
	5 根号を含む式の計算	○	○		平方根の意味、性質を理解している。根号を含む式の計算ができる。	4		
	補充問題、小テスト②	○	○	○		1		
	3節 1次不等式							
	6 不等式の性質	○			数量の大小関係を式で表すことができる。不等式の性質を理解している。	2		
	7 1次不等式	○	○		不等式における解の意味を理解し、1次不等式を解くことができる。	3		
	8 絶対値を含む方程式・不等式				絶対値の意味から、絶対値を含む方程式や不等式を解くことができる。	1		
	補充問題、小テスト③	○	○	○		1		
	6 前期中間考査		○	○	○		1	
後期	7	2章 集合と命題						
		1 集合	○	○		集合に関する用語や記号を理解している。ベン図を用いて集合を視覚的に表現することができる。	3	
		2 命題と条件	○	○		命題に関する用語の意味を理解している。命題の真偽を考察することができる。	3	
		3 命題とその逆・対偶・裏	○	○		逆・対偶・裏の意味を理解している。命題の逆・対偶・裏の審議を考察することができる。	2	
		4 命題と証明		○		対偶や背理法を利用して命題を証明することができる。	2	
	補充問題、小テスト④	○	○	○		1		
	3章 2次関数							
	1節 2次関数とグラフ							
	1 関数とグラフ	○			関数に関する用語や表記を理解している。1次関数のグラフをかくことができる。	2		
	2 2次関数のグラフ	○	○		2次関数の特徴を理解している。2次関数の平行移動について理解し、グラフをかくことができる。	6		
	補充問題、小テスト⑤	○	○	○		1		
	8 前期期末考査		○	○	○		1	
	9	2節 2次関数の値の変化						
		3 2次関数の最大・最小	○	○		2次関数の最大値・最小値を求めることができる。具体的な事象の最大・最小の問題を2次関数を用いて解決することができる。	4	
		4 2次関数の決定	○	○		与えられた条件を関数の式に表現し、2次関数を決定することができる。	2	
		補充問題、小テスト⑥	○	○	○		1	
		10 到達度テスト②		○	○	○		1
		3節 2次方程式と2次不等式						
5 2次方程式		○	○		因数分解や解の公式を用いて2次方程式を解くことができる。判別式の符号と実数解の個数の関係を理解している。	3		
6 2次関数のグラフとx軸の位置関係		○			2次関数のグラフとx軸の共有点の座標や個数を求めることができる。	4		
7 2次不等式		○	○		グラフを用いて2次不等式の解を求めることができる。	6		
補充問題、小テスト⑦		○	○	○		1		
11 4章 図形と計量								
1節 三角比								
1 三角比		○	○		三角比の定義を理解している。三角比の表を用いて、直角三角形の辺の長さや角の大きさを求めることができる。	4		
2 三角比の相互関係		○			三角比の相互関係を用いて、1つの三角比の値から残りの値を求めることができる。	2		
3 三角比の拡張		○	○		拡張した三角比の定義を理解している。鈍角の三角比の符号について考察することができる。	3		
補充問題、小テスト⑧	○	○	○		1			
12 後期中間考査		○	○	○		1		
1	2節 三角形への応用							
	4 正弦定理	○			正弦定理を用いて、三角形の辺の長さや外接円の半径を求めることができる。	3		
	5 余弦定理	○			余弦定理を用いて、三角形の辺の長さや角の大きさを求めることができる。	4		
	6 正弦定理と余弦定理の応用	○	○		余弦定理や正弦定理を用いて、三角形の残りの辺の長さや角の大きさを求めることができる。	3		
	7 三角形の面積	○			三角比を用いて三角形の面積を求めることができる。	2		
	8 空間図形への応用		○		三角比を測量に応用することができる。	2		
	補充問題、小テスト⑨	○	○	○		1		
	5章 データの分析							
	1 データの整理	○			度数分布表やヒストグラムについて理解している。	1		
	2 データの代表値	○	○		データの代表値の意味や定義を理解し、それらを求めることができる。	1		
	3 データの散らばりと四分位数	○	○		範囲や四分位数の定義やその意味を理解している。箱ひげ図をかき、データの分布を比較することができる。	2		
	学年末考査		○	○	○		1	
	3	4 分散と標準偏差	○			分散や標準偏差の定義やその意味を理解し、それらに関する公式を用いて、分散、標準偏差を求めることができる。	2	
		5 2つの変量の間の関係	○	○		散布図から2つの変量の間を考察することができる。相関係数の定義やその意味を理解し、それを求めることができる。	1	
		6 仮説検定の考え	○	○		仮説検定の考え方を理解し、具体的な事象に当てはめて考えることができる。	1	
補充問題、小テスト⑩		○	○	○		1		
CBA学力テスト						1		
防災学習		○	○		1			

教科 科目 単位数	数学 数学 I 3	受信校	北海道標津高等学校	学科 学年(年次) 履修・実施	普通科 第一学年 必修・習熟度
教科書 副教材	「改訂版 新編 数学 I」 (数研出版) 「改訂版 教科書傍用 3 TRIAL 数学 I」 (数研出版)				

1 目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

(2)命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。

(3)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

(高等学校学習指導要領 (平成 30 年 3 月告示) より)

2 学習のポイント

- ・なぜ?を大切にする。
- ・図やグラフなど大きく描く。
- ・別解を大切にする。
- ・ゴールから逆算して考える。
- ・学習の理解度を上げるために、最低限の予習として「教科書をじっくり読む」ことを推奨する。
- ・発展的な内容を取り上げ、思考力・判断力・表現力を磨くことを目指す。

3 学習の評価

(1) 評価の観点とその趣旨

次の3つの観点に基づいて内容や時間のまとまりごとに「A・B・C」の3段階で評価を行い、学年末に5段階評定へと総括します。

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

(2) 評価方法と観点との関連 (◎ = 特に関連の深いもの)

	評価方法\観点	①	②	③	主な対象
ア	学習活動の観察	○	○	◎	学習活動の取組
イ	ワークシート		◎	○	ワークシート (振り返りシート等) の記述
ウ	宿題・小テスト	◎		○	宿題の取組、小テストの結果
エ	定期考査 (単元テスト)	○	○		定期考査、または単元テストの結果
	総括時の比率	1	1	1	

4 その他

<p><遠隔授業について></p> <p>(1) 授業者は対面授業時を除き、基本的に配信校から授業をします。授業中の質問や疑問等については随時対応しますが、申し出にくい場合などについては、教室にいる受信担当の先生に申し出て構いません。</p> <p>(2) 授業者が現地にいない分、皆さんの積極的な活動がより一層重要になります。メリハリをもって活動したり、わからないところを互いに教え合ったりすることは特に重要です。ぜひ、一緒に授業を「作っていく」つもりで参加してください。</p> <p>(3) その他の遠隔授業の特性についてはオリエンテーション時に説明します。</p> <p><学習の支援について></p> <p>授業について、不安なことや気になること、配慮して欲しいことなどがあれば、可能な範囲で個別対応します。</p>

5 年間授業計画 (計 105 時間)

月	単元	配当	主な学習内容	目標・ねらい	観点ごとの主な評価の対象 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度	
4	オリエンテーション	1	数学 I の学習について			
	第1章 数と式 第1節 式の計算	8	1 多項式の加法と減法 2 多項式の乗法 3 因数分解 補充問題	<ul style="list-style-type: none"> ・整式の表現等について理解し、加法・減法の計算ができる。 ・指数法則や公式等を用いた計算ができる。 ・置換等の工夫をしながら計算ができる。 ・公式等を用いた因数分解ができる。 ・整式の形によつて的確に変形する方法を考察できる。 	①定期考査の結果 (単元テストの結果) 小テストの結果 ②定期考査の結果 (単元テストの結果) ワークシートの記述 ③ワークシートの取組 宿題の取組 学習活動の取組	
5	第2節 実数	6	4 実数 5 根号を含む式の計算 補充問題	<ul style="list-style-type: none"> ・数の分類について理解し、表現できる。 ・平方根の性質について理解し、根号を含む計算ができる。 		
	第3節 1次不等式	9	6 不等式の性質 7 1次不等式 8 絶対値を含む方程式・不等式 補充問題 章末問題 定期考査	<ul style="list-style-type: none"> ・不等式の性質を理解している。 ・1次不等式を解くことができる。 ・身近な問題に1次不等式が活用できることに関心をもち、考察しようとする。 ・絶対値の意味を理解し、絶対値を含む方程式・不等式を解くことができる。 		
6	第2章 集合と命題	11	1 集合 2 命題と条件 3 命題とその逆・対偶・裏 4 命題と証明 補充問題 章末問題	<ul style="list-style-type: none"> ・集合の分類等を理解し表現できる。 ・命題の真偽の意味を理解し、考察できる。 ・対偶等の意味を理解し、それらの真偽を考察しようとする。 ・対偶や背理法を用いた証明法について関心をもち、考察できる。 		
	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ	9	1 関数とグラフ 2 2次関数のグラフ 補充問題	<ul style="list-style-type: none"> ・関数の定義等を理解し、1次関数のグラフが描ける。 ・放物線の性質を理解している。 ・グラフの平行移動を理解し、平方完成ができる。 		
8						①定期考査の結果 (単元テストの結果) 小テストの結果 ②定期考査の結果 (単元テストの結果) ワークシートの記述

9	第2節 2次関数の値の変化	9	3 2次関数の最大・最小	<ul style="list-style-type: none"> ・2次関数の最大値と最小値を求めることができる。 ・2次関数の決定条件に興味、関心をもち、考察しようとする。 	③ワークシートの取組 宿題の取組 学習活動の取組
			4 2次関数の決定 補充問題 定期考査		
10	第3節 2次方程式と2次不等式	15	5 2次方程式	<ul style="list-style-type: none"> ・判別式の符号と実数解の個数の関係を理解し、解の考察ができる。 ・x軸の共有点の個数や位置関係を判別式の符号から考察できる。 ・2次関数のグラフと関連付けて2次不等式を解くことができる。 ・身近な問題を2次不等式の問題に帰着し問題を解くことができる。 	
			6 2次関数のグラフと x 軸の位置関係 7 2次不等式 補充問題 章末問題		
11	第4章 図形と計量 第1節 三角比	10	1 三角比	<ul style="list-style-type: none"> ・三角比の定義を理解し、具体的な事象を三角比の問題として考察できる。 ・三角比の1つの値から残りの値を求めることができる。 ・鈍角の三角比の定義を理解し、問題を解くことができる。 	①定期考査の結果 (単元テストの結果) 小テストの結果 ②定期考査の結果 (単元テストの結果) ワークシートの記述 ③ワークシートの取組 宿題の取組 学習活動の取組
			2 三角比の相互関係 3 三角比の拡張 補充問題 定期考査		
12	第2節 三角形への応用	15	4 正弦定理	<ul style="list-style-type: none"> ・正弦定理の図形的意味を考察し、三角形の外接円、円周角と中心角の関係などから、正弦定理を導こうとする。 ・正弦定理を利用し、三角形の辺や角の大きさを求めることができる。 ・余弦定理の図形的意味を考察できる。 ・余弦定理を利用し、三角形の辺や角を求めることができる。 ・条件に応じて正弦定理と余弦定理を使い分けて問題を考察できる。 ・条件に応じた方法で三角形の面積を求めることができる。 ・正弦定理と余弦定理を空間図形の計量に応用できる。 	
			5 余弦定理 6 正弦定理と余弦定理の応用 7 三角形の面積 8 空間図形への応用 補充問題 章末問題		
1	第5章 データの分析	12	1 データの整理	<ul style="list-style-type: none"> ・データを整理して全体の傾向を考察しようとする。 ・代表値を求めることができる。 ・中央値を用いる有用性について考察できる。 ・範囲や四分位数、箱ひげ図のかき方を理解し、データの比較ができる。 ・分散や標準偏差の定義とその意味を理解し、求めることができる。 ・散布図から相関関係を考察する 	①定期考査の結果 (単元テストの結果) 小テストの結果 ②定期考査の結果 (単元テストの結果) ワークシートの記述 ③ワークシートの取組 宿題の取組 学習活動の取組
			2 データの代表値 3 データの散らばりと四分位数 4 分散と標準偏差 5 2つの変量の間関係 定期考査		

3			<p>6 仮説検定の考え方</p> <p>補充問題 章末問題</p>	<p>ことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相関係数を求め、データを考察することができる。 ・仮説検定の考え方を理解し、具体的な事象に当てはめて考えることができる。 	
---	--	--	--	---	--

科目名	生物基礎			履修学年	第1学年
				履修形態	必修
				履修単位	2単位
使用教科書 (出版社)	生基007-901「生物基礎 新訂版」 実教出版				
使用教材 (出版社)	「アクセスノート生物基礎 改訂版」 実教出版				
学習の目標					
日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。					
教科担当者から					
生物基礎では、生命現象の基礎的なことについて学んでいきます。ノートは黒板に書いたことを写すだけではなく、自分が重要だと思ったことをメモしましょう。また、提出物などは必ず期日までに提出するようにしてください。わからないことがあれば遠慮なく聞いてください。					
評価の観点・方法・割合					
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
規準	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けるとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する技能を身に付けている。	生物や生物現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、生物の共通性と多様性を意識するなど、科学的な見方や考え方を身に付けている。		
評価方法	○ 重視するところ				
学習の状況の観察					○
課題の取り組み					○
提出物	○				○
定期考査	○				
レポート		○			
観点別学習評価基準 A：十分満足できる状況 B：概ね満足できる状況 C：努力を要する状況					
観点別学習評価	A	B			C
評価割合 (%)	100～85	84～30			29～0
観点別評価					
5	4	3	2	1	
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下	

学習内容及び評価基準

学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			学習のねらい（評価のポイント）	時間	
			知	思	主			
前期	4	第1章 生物の特徴						
	5	1節 生物の多様性と共通性 1 生物の多様性と共通性 2 細胞の機能と構造	○	○		・全ての生物は「細胞」からできているという共通性を理解している。	7	
			○	○		・細胞の構造を知ることにより、原核細胞と真核細胞、動物細胞と植物細胞の共通性と多様性を説明することができる。		
		2節 細胞とエネルギー 1 代謝とエネルギー 2 酵素 3 光合成 4 呼吸	○	○		・細胞内では分解や合成などの代謝が行われ、その際同時にエネルギーの出入りや変換を伴うことを関連付けて説明できる。異化同化より代謝について理解しようと努めている。	7	
			○	○		・細胞の中でエネルギーの受け渡しにATPという物質が関わっていることを理解している。		
			○	○		・呼吸によって有機物からエネルギーが取り出されることを理解している。		
	6	中間考査	○	○			1	
	後期	7	第2章 遺伝子とその働き 1節 遺伝情報とDNA ＜実験＞体細胞分裂の観察	○	○	○	・身のまわりの材料を用いてDNAを抽出することができ、どんな生物もDNAを持つことを理解している。	6
				○			・DNAの塩基配列が遺伝情報であることを理解している	
					○			・体細胞分裂の過程について染色体の動きを追いながら説明できる。
○				○		・プレパラートの作成法を習得できる。		
○						・体細胞分裂に伴うDNAの複製と分配について理解している。		
8		2節 遺伝情報とタンパク質の合成 ＜言語活動＞グループ討議、レポーター	○			・タンパク質合成に際して、DNAの塩基配列がアミノ酸配列に置き換えられることを理解している。	7	
			○	○		・細胞周期における各時期に要する時間と観察される数との関係について考察することができる。		
9				○	○		・体細胞分裂のひとつである卵割の観察を行い、卵割と通常の体細胞分裂の違いについて考察することができる。	
8		期末考査	○	○			1	
後期		10	第3章 ヒトのからだの調節 1節 体内環境	○		○	・生物の体内環境が保たれていることと、それに循環系・自律神経系・内分泌系が関わっていることを理解している。	6
	○					・血液の組成とはたらきについて理解している。		
	11	2節 体内環境の維持の仕組み		○	○	・肝臓のつくりとはたらきを学習することで、肝臓で様々な物質の合成・分解・貯蔵が行われて体液の成分が保たれていることを説明することができる。	6	
	12		○			・自律神経系の分布とはたらきを理解している。		
			○			・交感神経と副交感神経が拮抗的にはたらいていることを理解している。		
			○	○		・ホルモンとは何かということを、はたらきや性質を学習することによって理解し、説明することができる。		
	11	中間考査	○	○			1	
	1	3節 免疫	○	○	○	・病原体などの異物から身を守るために、それらの侵入を防ぐ仕組みや、それらを白血球やリンパ球のはたらきで排除するしくみを説明することができる。	6	
			○	○	○	・免疫に関する身近な例として、免疫システムがはたらかなくなるエイズについて理解している。		
		2	第4章 生物の多様性と生態系 1節 植生と遷移	○			・生物の集団と非生物的環境が互いに関係して、生態系をつつていくことを理解している。	5
○					○	・陸上には草原や森林などの様々な植生が見られ、それらは不変ではなく、長期的には移り変わっていくことを理解している。		
○						・気温と降水量の違いによって、地球上では様々なバイオームが成立していることを説明することができる。		
3	2節 植生とバイオーム	○	○		・植物を中心とした世界と日本のバイオームについて理解している。	5		
		○	○	○	・生態系において物質が循環すること及びそれに伴ってエネルギーが循環することを理解している。			
	3節 生態系と生物の多様性	○	○		・生態系のバランスについて理解し、生態系を保全することが重要であることを認識することができる。	4		
		○	○		・人為的に移入された生物が生態系にどのような影響を与えるかを資料を用いて具体的に考察することができる。			
2	防災教育 学年末考査	○	○	○	・避難時の感染症対策や健康管理を理解する（実施時期未定）	1		
			○	○		1		

科目名	体育【保健体育】			履修学年	第1学年
				履修形態	必修
				履修単位	3単位
使用教科書 (出版社)	現代高等保健体育 (大修館書店)				
使用教材 (出版社)	ステップアップ高校スポーツ (大修館書店)				
学習の目標					
<p>各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高めるとともに、それらの経験を通して公正・協力・責任などの態度を育てましょう。また、生涯を通じて継続的に運動を実践できる資質や能力を身につけましょう。</p>					
教科担当者から					
<p>仲間と協力して目標設定、学習計画などに取り組み、みなさんが主体的に授業を進めていきます。個人練習やグループワークなど学習方法はさまざまです。</p>					
評価の観点・方法・割合					
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
規準	<p>運動の特性に応じた技能を身につけ、習得した技能を發表したり、チームの作戦を生かした攻防を展開してゲームが出来るようにする。種目の特性に応じた技術の構造や技能を高めるための効果的な練習の仕方、ルール、發表会や競技会の企画や運営の仕方を理解している。</p>	<p>自分やチームの能力に応じた課題を設定し、その解決を目指して、練習の仕方やゲームの仕方を工夫する。</p>	<p>自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしている。</p>		
評価方法	○ 重視するところ				
学習の状況の観察	○	○	○		
提出物	○	○	○		
技能試験	○				
筆記試験	○		○		
観点別学習評価基準 A：十分満足できる状況 B：概ね満足できる状況 C：努力を要する状況					
観点別学習評価	A	B		C	
評価割合 (%)	100～85	84～30		29～0	
観点別評価					
5	4	3	2	1	
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下	

学習内容及び評価基準

学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			学習のねらい（評価のポイント）	時間
			知	思	主		
前期	4	体育理論「H」 集団行動 体づくり運動「A」 新体力テスト	○	○	○	体力トレーニングの意義について理解を深め、目的に応じて活用できるようにする。 隊列を乱さず集団行動できるようにする。 体ほぐしの運動と体力を高める運動を通して運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする。	14
		器械運動「B」 選択Ⅰ（球技「E」）	○	○	○	技能・知識・理解を深め、仲間と協力しながら自己の学習課題を解決する。 自己の能力に応じて技を選択し、新たな技の練習を重ねて習得し、演技を発表する。	14 12
		ダンス「G」	○	○	○	技能・知識・理解を深め、仲間と協力しながら自己の学習課題を解決する。 手本の踊りを見て学び、リズムに合わせて全身を使って踊ることができるようになる。	4
		陸上競技「C」 （強歩遠足の練習を含む）	○	○	○	技能・知識・理解を深め、仲間と協力しながら自己の学習課題を解決する。 自己の能力に応じて運動の技能を高め、競技したり、記録を高めたりすることができるようになる。	10
		強歩遠足	○	○	○	技能・知識・理解を深め、仲間と協力しながら自己の学習課題を解決する。 仲間と励まし合いながら目標達成に向けて努力する。	2
後期	5 6 7 8 9	サッカー（球技「E」）					13
		体育理論「H」 選択Ⅱ（球技「E」）	○	○	○	技能・知識・理解を深め、仲間と協力しながら自己の学習課題を解決する。基本動作を学習し、投げ技と受け身、抑え技等を身につけ、対人技能を身につける。	14
		体育理論「H」 選択Ⅲ（球技「E」）	○	○	○	技能・知識・理解を深め、仲間と協力しながら自己の学習課題を解決する。	14
		スポーツ大会					8

科目名	保健			履修学年	第1学年
				履修形態	必修
				履修単位	1単位
使用教科書 (出版社)	現代高等保健体育 (大修館書店)				
使用教材 (出版社)	現代高等保健体育ノート (大修館書店)				
学習の目標					
<p>わが国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解できるよう学習を深めましょう。</p>					
教科担当者から					
<p>学習方法はさまざまです。知識や理解を深め、それらをもとにグループワークなどを行い、自分の意見を述べたり仲間の意見を聞くことであらゆる視点から自分の健康や社会生活をみつめていきましょう。また、調べ学習をしてそれを発表するなど、仲間とのかかわりを大切にしていきます。</p>					
評価の観点・方法・割合					
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
規準	健康を保持増進するための課題の解決に役立つ自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくための基礎的な事項を理解している。	健康を保持増進するための課題解決を目指して、知識を活用して総合的に考え、判断することを表現できる。	生涯の各段階と健康、社会生活における健康の保持増進について理解し、自らの健康を保持増進できるよう関心を持ち、学習活動を試行錯誤し、調整しながら取り組もうとしている。		
評価方法	○ 重視するところ				
学習の状況の観察	○		○		
提出物	○	○	○		
レポート		○	○		
単元テスト	○	○			
観点別学習評価基準 A：十分満足できる状況 B：概ね満足できる状況 C：努力を要する状況					
観点別学習評価	A	B		C	
評価割合 (%)	100～85	84～30		29～0	
観点別評価					
5	4	3	2	1	
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下	

学習内容及び評価基準								
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			学習のねらい（評価のポイント）	時間	
			知	思	主			
前期	4	1 単元 現代社会と健康 オリエンテーション					1	
		01 健康の考え方と成り立ち	○	○	○	さまざまな健康の考え方について例をあげて説明できる。	5	
		19 健康に関する環境作り	○	○	○	社会環境の健康への影響について例をあげて説明できる。		
		02 私たちの健康のすがた	○	○	○	わが国の健康水準の変化とその背景について説明できる。		
	5	6	単元テスト	○	○		1	
	7	8	15 現代の感染症	○	○	○	感染症とは何かについて潜伏期間や感染力なども含めて説明できる。	8
			16 感染症の予防	○	○	○	感染症の予防対策について3原則から例をあげて説明できる。	
		17 性感染症・エイズとその予防	○	○	○	性感染症・エイズがほかの感染症と異なる点について説明できる。		
		03 生活習慣病の予防と回復	○	○	○	生活習慣病の種類と要因について説明できる。		
		04 がんの原因と予防	○	○	○	がんの種類や原因について説明できる。 がんの一次予防と二次予防について例をあげて説明できる。		
		05 がんの治療と回復	○	○	○	がんのおもな治療法や緩和ケアについて説明できる。		
		8	単元テスト	○	○		1	
	後期	9	10 06 運動と健康	○	○	○	健康と運動の関係について説明できる。	8
			11 07 食事と健康	○	○	○	食事と健康について説明できる。	
			08 休養・睡眠と健康	○	○	○	健康と休養の関係及び適切な休養のとり方について説明できる。	
09 喫煙と健康			○	○	○	喫煙者やその周囲の人に起こる害について説明できる。		
10 飲酒と健康			○	○	○	飲酒による健康への短期的影響と長期的影響を説明できる。		
11 薬物乱用と健康			○	○	○	薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響について説明できる。		
11			単元テスト	○	○		1	
12		1	2 12 精神疾患の特徴	○	○	○	精神疾患の例をあげ、発病の要因とおもな症状について説明できる。	6
			13 精神疾患の予防	○	○	○	精神疾患を予防する方法について説明できる。	
			14 精神疾患からの回復	○	○	○	精神疾患の治療について例をあげて説明できる。	
			18 健康に関する意思決定・行動選択	○	○	○	意思決定・行動選択に影響を与える要因について説明できる。	
		2	単元テスト	○	○		1	
2		3	2 単元 安全な社会生活					3
			01 事故の現状と発生要因	○	○	○	事故の実態と被害について説明できる。	
			02 安全な社会の形成	○	○	○	安全のために必要な個人の行動について例をあげて説明できる。	
	03 交通における安全		○	○	○	交通事故の防止における個人の取り組みと交通環境の整備について例をあげて説明できる。		

教科 科目 単位数	芸術 書道 I 2	受信校	北海道標津高等学校	学科 学年(年次) 履修・実施	普通科 第一学年 必修・一斉
教科書 副教材	「新編 書道 I」(大修館書店)				

1 目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 書のおよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

(高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)より)

2 学習のポイント

- (1) 作品制作のポイントの整理や鑑賞活動などにワークシートを使用することもありますので、活用してください。
- (2) ほぼ毎時間、自分で写真を撮影し、classroomを通して作品を提出します。
- (3) 試験は実施しません。毎回の提出作品やポートフォリオへの記述、取り組みの様子などをもとに評価をします。書道 I では、作品制作のための技術を身に付ける学習だけではなく、様々な学習活動を行い、評価をします。
- (4) この科目では、実技だけではなく、根拠をもって作品を鑑賞する活動や、制作する上で自分自身が考えたことを記述するといった活動があります。考えたことや感じたことを積極的に、文章や発言で表現するように心がけてください。
- (5) 友達と作品の相互批評や、話し合いの場面も多くあります。積極的に参加してください。
- (6) 実技教科なので用具・用材は大切です。直接作品に影響が出ますので、大切に扱ってください。

3 学習の評価

(1) 評価の観点とその趣旨

次の3つの観点に基づいて内容や時間のまとまりごとに「A・B・C」の3段階で評価を行い、学年末に5段階評定へと総括します。

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 ・書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。	書のおよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりしている。	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

(2) 評価方法と観点との関連(◎=特に関連の深いもの)

評価方法\観点	①	②	③	主な対象
ア 学習活動の観察	○	○	◎	学習活動の取組
イ ワークシート	○	◎	◎	FigJam、ワークシート、ポートフォリオ等への記述
ウ 作品	◎	○	○	提出作品
総括時の比率	1	1	1	

4 その他

<遠隔授業について>

- (1) 授業者は対面授業時を除き、基本的に配信校から授業をします。授業中の質問や疑問等については随時対応しますが、申し出にくい場合などについては、教室にいる受信担当の先生に申し出ても構いません。
- (2) 授業者が現地にいない分、皆さんの積極的な活動がより一層重要になります。メリハリをもって活動したり、わからないところを互いに教え合ったりすることは特に重要です。ぜひ、一緒に授業を「作っていく」つもりで参加してください。
- (3) その他の遠隔授業の特性についてはオリエンテーション時に説明します。

<学習の支援について>

- (1) 授業について、不安なことや気になること、配慮して欲しいことなどがあれば、可能な範囲で個別対応します。直接相談しにくい場合は、classroomやポートフォリオに書いてもらっても構いません。

5 年間授業計画 (計 70 時間)

月	○題材 ●主な教材	配当 (時)	【学習領域】 ・主な学習内容 □対面授業 ◇テスト等	目標・ねらい	観点ごとの 主な評価の対象 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
4 / 5	○オリエンテーション	2	・書道 I の学習について ・書表現の多様性について知る。 □対面授業① (予定)	高等学校における書道の学習について見通しをもつことができる。 端末の使用方法についても理解することができる。	年間を通して以下の項目を主な評価の対象とする。 ①ワークシートへの記述状況、提出作品 ②ワークシートへの記述状況 ③取組の状況、ワークシートへの記述状況、提出作品
	○漢字の書の学習① 書風と結構法 ●九成宮醜泉銘 ●孔子廟堂碑	4	【A 表現】【B 鑑賞】 ・楷書の基本用筆を学ぶ ・様々な楷書の表現の習得	基本的な楷書の筆使いを学ぶ。 初唐の三大家の書を学び、同じ楷書の表現にも様々な違いがあることを理解し、表現することができる。	
	○漢字の書の学習② 多様な筆使い ●雁塔聖教序 ●顔氏家廟碑	4	【A 表現】【B 鑑賞】 ・入筆に留意して書く。 ・筆圧のかけ方による表現の違い。 ・軽快な書風と重厚な書風	入筆には様々な表現があることを知り、留意しながら書くことができる。筆圧の違いによる表現の差異に気付き表現できる。	
	○漢字の書の学習③ 円筆と方筆 ●牛欄造像記 ●鄭羲下碑	4	【A 表現】【B 鑑賞】 ・方勢で力強い書風 ・円勢でゆったりした書風	初唐の三大家のような楷書の姿だけではなく、様々な楷書の表現があることを理解し、様々な表現をするための筆使いを表現することができる。	
6 / 7	○漢字の書の学習④ 行書の基本用筆 ●蘭亭序 (神龍半印本)	4	【A 表現】【B 鑑賞】 ・行書の基本用筆を学ぶ ・蘭亭序の良さを味わう。	蘭亭序の歴史的背景を理解することができる。行書の持つリズムや流れを意識して表現することができる。	
	○多様な蘭亭序を味わう ●蘭亭序 (八柱第二本・八柱第三本)	2	【B 鑑賞】 ・2 種類の蘭亭序を「見る」と「書くこと」を通して鑑賞を深める。	2 種類の蘭亭序の違いを具体的に指摘し、違いを見極めたうえで、根拠を明らかにしてどちらの蘭亭序が好きかを説明する。	
	○漢字の書の学習⑤ 様々な行書の筆使いと書風 ●祭姪稿 ●風信帖	6	【A 表現】【B 鑑賞】 ・蘭亭序とは異なる行書の表現を学ぶ。 ・祭姪稿や風信帖の書かれた背景を理解し、古典を味わう。	祭姪稿の書かれた背景の理解を通して、線質や字形から作者の感情を感じ取ることができる。 蘭亭序とは異なる勢いのある行書の表現をすることができる。	
8 / 9 / 10	○漢字の書の学習⑥ 漢字創作 ●自選の漢字	2	【A 表現】【B 鑑賞】 ・漢字創作 ・画仙紙や色紙に文字を書く	これまでの古典の学習を踏まえながら、自分なりの意図に応じた書表現を工夫しながらすることができる。	
	○漢字の書の学習⑦ 篆書の用筆と運筆 ●泰山刻石	2	【A 表現】【B 鑑賞】 ・篆書の基本的な筆使いの習得	篆書の筆使いである、藏鋒、中鋒を習得し、篆書の特徴的な文字造形を表現できる。	
	○漢字の書の学習⑧ 篆刻の学習 ●様々な篆刻作品	6	【A 表現】【B 鑑賞】 ・篆刻についての理解を深める。 ・様々な篆刻作品に親しむ。 ・自分の印を制作する。	篆刻の歴史や用途についての理解を深めることができる。また、様々な篆刻作品の作風があることを理解できる。自分なりの落款印を制作することができる。	

11 / 12	○漢字の書の学習⑨ 隷書の筆使いと字形 ●曹全碑	2	【A表現】【B鑑賞】 ・隷書の筆使いの習得	隷書の基本的な筆使いを表現することができる。臨書例との違いを指摘することで、細かな字形の違いを意識して臨書できる。
	○古典を探求しよう ●曹全碑 ●張遷碑 ●様々な隷書	4	【B鑑賞】 ・張遷碑の分析 ・隷書の分類	張遷碑を多角的に観察し、特徴や良さを説明することができる。多様な隷書を、根拠を明確にしながらか分類することができる。
	○漢字の書の学習⑩ 草書の用筆と運筆 ●書譜	2	【A表現】【B鑑賞】 ・基本的な草書の筆使いの習得	草書の特徴を理解するとともに、基本的な草書の筆使いができるようになる。
	○仮名の書① 仮名の基本的な筆使い ●いろは歌 ●蓬萊切	4	【A表現】【B鑑賞】 ・仮名に親しむ ・仮名の基本的な筆使いの習得 ・和歌を書く	仮名の基本的な筆使いができるようになる。文字の大小、行の流れ、墨の付け方に気をつけながら「蓬萊切」を書くことができる。
	○仮名の書② 単体と連綿 ●高野切第三種 ●元永本古今和歌集	4	【A表現】【B鑑賞】 ・仮名の書風の違いを理解する。	同じ和歌の作品を比較し、違いを指摘することで、書風の特徴を言葉にすることができる。字幅の変化や墨の付け方に注意して書くことで、行の流れを表現できる。
	○仮名の書③ 散らし書き ●三色紙	2	【A表現】【B鑑賞】 ・色紙の表現を味わう。	色紙の表現を味わい、意図について考えることができる。古典の散らし方を学び表現することができる。
	○仮名の書④ 仮名の創作 ●自選の和歌	2	【A表現】【B鑑賞】 ・散らし書きの創作 □対面授業②（予定）	仮名の基本的な用筆を生かして、自選の歌を表現することができる。意図に応じた構成や表現に向けて工夫することができる。
1 / 2 / 3	○漢字仮名交じりの書の学習① 楷書の古典の応用 ●海遠い海よ ●様々な現代の詩歌	4	【A表現】【B鑑賞】 ・漢字仮名交じりの書に触れる。 ・楷書の筆使いを応用した表現。	漢字仮名交じりの書の歴史等に触れ、どのような書なのかを理解するとともに、これまでに学習した楷書の古典の用筆を生かした表現をすることができる。
	○漢字仮名交じりの書の学習② 筆脈と字形 ●様々な漢字仮名交じりの書の作品 ●様々な現代の詩歌	4	【A表現】【B鑑賞】 ・行書の古典の表現を応用した表現。 ・字形を工夫して書く。	これまで学習してきた行書の古典を生かして書くことで、筆脈に留意して書くことができる。また、字形を工夫して表現を広げることができる。
	○漢字仮名交じりの書の学習③ カレンダーの制作 ●自選のこぼし等	4	【A表現】【B鑑賞】 ・構成の工夫 ・作品の構想・工夫	作品制作の過程を理解し、古典の応用、構成の工夫といった視点を加味しながら自分なりの表現をすることができる。
	○一年間のまとめ ●ポートフォリオに蓄積した自分の作品	2	【A表現】【B鑑賞】 ・一年間の学習の振り返り	自分のこれまでの書道の学習を振り返り、自分自身ができるようになったことを確認する。

※年間を通して、【鑑賞】の学習領域の活動を帯単元として行う予定。

※適宜、他者の作品を批評する活動や、意見交換しながら作品の構想、工夫をする活動を行う。

教科 科目 単位数	外国語 英語コミュニ ケーションI 3	受信校	北海道標津高等学校	学科 学年(年次) 履修・実施	普通科 第一学年 必修・習熟度
教科書 副教材	「All Aboard! English Communication I Revised」(東京書籍) 「All Aboard! English Communication I Revised WORKBOOK」(東京書籍) 「データベース4800 完成英単語・熟語」(桐原書店) 「Focus on Listening Basic ver.2 CD無」(エミル出版)				

1 目標

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

(高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)より)

2 学習のポイント

- (1) オリエンテーション時に示す「授業のルール」を守り、積極的に言語活動に取り組んでください。
- (2) ワークシート等を配布することがあります。配布物を整理するためのファイル(A4サイズ)があると便利です。
- (3) この科目では、英語で聞く、読む、話す、書くといった活動を日常的に行います。ペアやグループの活動では、自分の意見を積極的に述べるなど、恥ずかしがることなくコミュニケーションを図る努力をしてください。
- (4) 特に「話すこと」については、スピーチのような発表活動だけでなく、テーマに応じて即興で話すディベートも実施します。知識や表現の能力だけでなく、取り組みへの積極性も評価されますので、前向きに取り組んでください。

3 学習の評価

- (1) 評価の観点とその趣旨

次の3つの観点に基づいて内容や時間のまとまりごとに「A・B・C」の3段階で評価を行い、学年末に5段階評定へと総括します。

① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
・英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・英語の音声、語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	英語の背景にある文化に関する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

- (2) 評価方法と観点との関連(◎=特に関連の深いもの)

	評価方法\観点	①	②	③	主な対象
ア	学習活動の観察	○	○	◎	言語活動、ペア・グループワーク
イ	ワークシート	◎	◎	○	課題提出
ウ	パフォーマンステスト	◎	◎	○	プレゼンテーション、ディベート等
エ	ペーパーテスト	◎	◎		定期考査、単語テスト
総括時の比率		1	1	1	

4 その他

<遠隔授業について>

- (1) 授業者は対面授業時を除き、基本的に配信校から授業をします。授業中の質問や疑問等については随時対応しますが、申し出にくい場合などについては、教室にいる受信担当の先生に申し出ても構いません。
- (2) 授業者が現地にいない分、皆さんの積極的な活動がより一層重要になります。メリハリをもって活動したり、わからないところを互いに教え合ったりすることは特に重要です。ぜひ、一緒に授業を「作っていく」つもりで参加してください。

- (3) 遠隔授業のため、音声の遅れや乱れが予想されます。これらの不都合を常に意識して柔軟に対応してください。
 (4) 遠隔授業では、Google Classroom などのクラウドサービスを活用します。利用におけるルールを遵守してください。
 (5) その他の遠隔授業の特性についてはオリエンテーション時に説明します。

<学習の支援について>

授業について、不安なことや気になること、配慮して欲しいことなどがあれば、可能な範囲で個別対応します。直接相談しにくい場合は、Classroom やワークシートに書いてもらっても構いません。

5 年間授業計画 (計 105 時間)

月	○題材	配当	【学習領域】 ・主な学習内容 □対面授業 ◇テスト等	目標・ねらい	観点ごとの 主な評価の対象 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
4 / 5 / 6	○オリエンテーション ○自己紹介	1	・英語コミュニケーション I の学習について 【話す/聞く】 ・自分のことについて話す	・アンケートへの回答を通し、これまでの英語の学習を振り返り、英語コミュニケーション I の学習についての見通しをもつ。 ・一連の簡単な語句や文を使って自己紹介ができる。	①ペーパーテスト等の結果 ②パフォーマンステスト及び活動の観察の結果 ③自己評価(振り返りシートなどの記述内容)
	○Lesson 1 Breakfast Around the World	10	【読む/聞く/書く】 ・過去形 【書く/話す/聞く】 ◇ <u>パフォーマンステスト</u>	・好きな食べ物について英語で述べたり、世界の朝食について紹介したりすることができる。 ・過去の出来事について話したり、質問したりすることができる。	
	○Lesson 2 Australia's Cute Quokkas	10	【読む/聞く/書く】 ・進行形 【書く/話す/聞く】 ◇ <u>パフォーマンステスト</u> □ <u>対面授業①</u>	・好きな動物について英語で紹介することができる。 ・進行形を用いて、現在していることを説明することができる。	
	前期中間考査	1	◇ <u>前期中間考査</u>	・学習内容の定着状況を確認する。	
7 / 8 / 9	○Lesson 3 A Train Driver in Sanriku	10	【読む/聞く/書く】 ・助動詞 can, will 【書く/話す/聞く】 ◇ <u>パフォーマンステスト</u>	・ある場所への行き方とそこでできることについて、英語で述べることができる。 ・助動詞を用いて、できることやできないこと、未来について話したり、質問したりすることができる。	①ペーパーテスト等の結果 ②パフォーマンステスト及び活動の観察の結果 ③自己評価(振り返りシートなどの記述内容)
	○Lesson 4 A Miracle Mirror	10	【読む/聞く/書く】 ・to 不定詞: <to + 動詞の原形> 【書く/話す/聞く】 ◇ <u>パフォーマンステスト</u>	・to 不定詞を用いて、行ってみたい場所やそこでやりたいことについて英語で話すことができる。	

	○Lesson 5 Learning from the Sea	10	【読む/聞く/書く】 ・動名詞 【書く/話す/聞く】 ◇パフォーマンステスト	・部活動など学校で取り組んでいることについて英語で説明することができる。 ・動名詞を用いて、将来の夢について英語で紹介することができる。	
	前期期末考査	1	◇前期期末考査	・学習内容の定着状況を確認する。	
10 / 11	○Lesson 6 A Funny Picture from the Edo Period	10	【読む/聞く/書く】 ・受け身 【書く/話す/聞く】 ◇パフォーマンステスト	・好きな絵について英語で紹介することができる。 ・受け身を用いて、物や状況の説明をすることができる。	①ペーパーテスト等の結果 ②パフォーマンステスト及び活動の観察の結果 ③自己評価(振り返りシートなどの記述内容)
	○Lesson 7 A Diary of Hope	10	【読む/聞く/書く】 ・比較表現 【書く/話す/聞く】 ◇パフォーマンステスト	・関心のある人物について、英語で説明することができる。 ・比較表現を用いて、状況を説明したり、意見を述べたりすることができる。	
	後期中間考査	1	◇後期中間考査	・学習内容の定着状況を確認する。	
12 / 1 / 2	○Lesson 8 A Door to a New Life	10	【読む/聞く/書く】 ・現在完了形 【書く/話す/聞く】 ◇パフォーマンステスト	・人の生活を豊かにするロボットについて聞いて考え、英語で提案することができる。 ・現在完了形を用いて、継続していることや経験したことについて話したり、質問したりすることができる。	①ペーパーテスト等の結果 ②パフォーマンステスト及び活動の観察の結果 ③自己評価(振り返りシートなどの記述内容)
	○Lesson 9 Fighting Plastic Pollution	10	【読む/聞く/書く】 ・名詞を後ろから説明する分詞 【書く/話す/聞く】 ◇パフォーマンステスト	・環境を守るためにできることについて、英語で述べることができる。 ・名詞を後ろから説明する分詞を用いて、名詞を詳しく説明をすることができる。	
	学年末考査	1	◇学年末考査	・学習内容の定着状況を確認する。	
3	○Lesson 10 Pigs from across the Sea	10	【読む/聞く/書く】 ・関係代名詞 who, which 【書く/話す/聞く】 ◇パフォーマンステスト	・海外の文化や社会に対する理解を深める活動について、英語で述べることができる。 ・関係代名詞を用いて、人や物について詳しく説明をすることができる。	①ペーパーテスト等の結果 ②パフォーマンステスト及び活動の観察の結果 ③自己評価(振り返りシートなどの記述内容)

科目名	英語コミュニケーション I		履修学年	第1学年
			履修形態	必修
			履修単位	3単位
使用教科書 (出版社)	All Aboard! English Communication I Revised (東京書籍)			
使用教材 (出版社)	All Abroad English Communication I Revised WORKBOOK(東京書籍) Focus on Listening Basic ver.2 (エミル出版) データベース 4800 完成英単語・熟語 (桐原書店)			
学習の目標				
<p>中学校の学習事項を再確認し、一層の習熟をねらいとする。また、英語の基礎的・基本的な知識や技能の習得を土台として、コミュニケーション能力の育成を図る。「聞くこと」「読むこと」「話すこと」(やりとり)「話すこと」(発表)「書く」の5つの領域を総合的に関連づけ、技能向上を目指す。</p>				
教科担当者から				
<p>英語は、世界で一番多くの国と地域で使われている言葉です。英語を使えるようになると、世界中を旅したり、自分の世界を拡げたりすることができます。英語はどちらかと言うと、体育などの実技教科に似ており、たくさん使って(=練習をする)ことで上達していきます。授業を楽しみながら、ミスを恐れずにどんどん英語を使ってみましょう。評価は考查だけでなく、パフォーマンステストや普段の授業での取り組みも見ていきます。お互い助け合いながら頑張っていきましょう。Join the class, try the class and enjoy the class!</p>				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
規準	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語についての音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 	
評価方法	◎ 重視するところ			
学習の状況の観察		◎	◎	
課題の取り組み			◎	
提出物	◎		◎	
定期考查	◎	◎		
パフォーマンステスト	◎	◎		
観点別学習評価基準 A：十分満足できる状況 B：概ね満足できる状況 C：努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B		C
評価割合 (%)	100～85	84～30		29～0
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準

学期	月	単元名/学習内容	評価の観点					学習のねらい (評価のポイント)	時間	
			L	R	Sや	S発	W			
前期		授業開き							1	
	4	中学校内容の復習 (Warm-Up 1-3、Pre Lesson 1-3)		○		○	○	中学校内容の復習	9	
	5	Lesson 1 Breakfast around the	○	○	○			世界の朝食を通して、国間の相違や特徴を理解する。	10	
	6	Lesson 2 Australia's Cute Quokkas	○	○		○		珍しい動物と観光のルートについて理解する。	9	
		<前期中間考査>							1	
		Lesson 3 Life with Spade	○	○			○	愛馬についてのインタビューを通して、人と動物の絆について学習する。	9	
	7	Lesson 4 A Miracle Mirror	○	○		○		海外の観光地について、魅力を理解し、行ってみたい場所を発表する。	9	
	8	Lesson 5 A Dream Engine	○	○		○	○	高校のユニークな取組を通して、将来の夢について考える。	5	
	9	<前期期末考査> (パフォーマンステスト) (防災学習)							1 2 1	
	後期	10	Lesson 6 A Funny Picture from the Edo Period	○	○	○			浮世絵と現代マンガの関連性について考える。	8
		11	Lesson 7 A Diary of Hope	○	○	○			アンネ・フランクの生活や日記に関する記述を読み、内容をまとめる。	8
			<後期中間考査>							1
		Lesson 8 A Door to a New Life	○	○		○	○	ロボットカフェを紹介する実況中継を通して、ロボットの可能性について考える。	8	
12		Lesson 9 Ghosts in the Oceans	○	○		○		ゴーストギアが海の生き物に与える影響とその解決策について学習する。	8	
1									3	
2		Lesson 10 Pigs from across the Sea	○	○	○			第2次世界大戦後の沖縄とハワイ在住の日系アメリカ人とのやりとりを読んで、現在の交流について理解する。	9	
		<学年末考査> (パフォーマンステスト)							1 2	
3		総復習		○			○		1	

科目名	家庭総合			履修学年	第1学年
				履修形態	必修
				履修単位	2単位
使用教科書 (出版社)	Creative Living『家庭総合』で生活をつくろう (大修館書店)				
使用教材 (出版社)	なし				
学習の目標					
<ul style="list-style-type: none"> 生きていく上で必要な生活の実践力を身につける。 人の一生と家族・家庭、衣生活、消費生活、高齢社会、持続可能な社会に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得する。 家庭や地域の生活課題を主体的に解決する能力と実践的な態度を身につける。 					
教科担当者から					
<ul style="list-style-type: none"> 日常生活と密接した内容を学習します。 授業で行う実習だけでは生活に関する技術は身に付きづらいので、授業で学習したことを家庭でも繰り返し実践すること。 定期考査(2回)の他に、提出物(期限厳守)や授業態度等の評価も高いので、意欲的に取り組むこと。 授業中に積極的に発言し、板書をノートにきれいに記入すること。 プリントや振り返りフォームには、自分の意見を具体的に書くこと。 					
評価の観点・方法・割合					
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
規準	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣生活、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を身につけているか。また、被服実習において基礎的・基本的な技術を身につけることができたか。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣生活、消費生活などについて課題を見出し、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現を工夫するなど、生活を創造する能力を身につけているか。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣生活、消費生活などについて関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけているか。		
評価方法	○ 重視するところ				
学習の状況の観察			○		
実習の取り組み	○		○		
グループワークへの取り組み		○	○		
提出物	○	○	○		
定期考査	○	○			
観点別学習評価基準 A: 十分満足できる状況 B: 概ね満足できる状況 C: 努力を要する状況					
観点別学習評価	A	B		C	
評価割合 (%)	100~85	84~30		29~0	
観点別評価					
5	4	3	2	1	
85%以上	84~70%	69~45%	44~30%	29%以下	

学習内容及び評価基準								
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			学習のねらい（評価のポイント）	時間	
			知	思	主			
前期	4	家庭科を学ぶにあたって			○	・学習の意義を理解し、目的意識をもつ。	1	
	4～5	第1章 生活のマネジメント 1 生涯、発達し続ける 2 意志決定を重ねてつくる人生 3 どんな生き方をする？ 演習にTry! 人生を見通してみよう	○		○	・個人の発達段階の特徴と発達課題を知る。 ・ライフステージについて理解する。	5	
			○	○	○	・様々なライフスタイルがあることを知り、自分の将来のライフスタイルを具体的にイメージする。		
	5	第2章 青年期の課題と自立 1 子どもからおとなへ 2 自立の達成をめざそう	○	○	○	・自分の生活と自分自身について自己理解を深める。 ・青年期は、自立した生活が営めるように、また、自己実現に向けて生きていくための準備をする時期であることを理解する。	4	
	5～6	第3章 家族・家庭生活のマネジメント 1 家族って何だろう 2 わかってくれて当然？ 3 生活マネジメントの拠点 4 法律からみる家族・家庭 5 ダイバーシティの実現をめざす	○		○	・「家族」の定義を理解する。 ・家族と世帯について理解し、現代の家族の特徴と社会とのかわりについて理解する。	6	
			○	○	○	・家庭の機能が各家族員の協力によって果たされていることを認識し、各自の家庭での役割を考える。		
			○	○	○	・家族・家庭に関する法律を理解し、制度としての家族について考える。		
			防災学習			○		1
	6～9	第10章 衣生活のマネジメント 1 人と被服のかかわり 2 和服を着たこと、ある？ 3 快適な衣生活の条件 4 夏は麻、冬は毛の理由 5 健康と安全を守る被服 6 長持ちさせる手入れ 7 被服の3R、実践してる？ 8 オリジナルの被服をつくる 【実習】被服製作 9 衣生活のPDCA	○		○	・人間と被服の関係を、被服の歴史から確認する。 ・衣文化の成り立ちを知り、その変化の過程と現代の衣生活との関係を知る。	18	
				○	○	○	・被服の機能について知り、TPOやライフステージに応じて、自分も他人も快適になる被服の着用ができるようにする。	
				○		○	・被服材料の種類、性能、性能向上のための各種加工法を知る。	
				○	○	○	・洗濯の目的と方法、洗剤の種類と働きを理解する。 ・被服の収納の方法を工夫し、実践する態度を養う。	
				○	○	○	・衣生活における資源や環境問題を考え、配慮する姿勢を持つ。 ・被服製作の工程と留意点を理解し、日常生活に役立つ縫製に関する基本的な知識と手法を理解する。	
			○		○	・既製衣料品には種々の表示があることを知り、表示の内容を理解する。		
		前期期末考査	○	○			1	
後期	10～11	第8章 経済生活のマネジメント 1 生活を営むためのお金 2 経済のしくみを知ろう 3 お金と上手につきあう術 演習にTry! ライフプランを立てよう 【言語活動】グループワーク 4 18歳で変わる消費生活 5 進むキャッシュレス社会 6 「お金を借りる」ということ 7 消費者トラブルの今 8 消費者の自立を支援する 9 情報社会を生きる 10 私たちが社会を動かす 【金融リテラシー検定受検】	○		○	・労働に関する契約や条件について知る。 ・毎日の生活を営むために必要な費用を知る。 ・家計を中心とした経済の循環を知る。 ・リスク管理について知る。 ・家計管理と資金管理について知る。 ・消費にかかわる契約について理解する。 ・契約を交わす際の注意点、契約を交わしたときに発生する法的責任、契約に関するトラブルについて知る。	19	
			○		○	・経済発展や技術の進歩により、消費生活は多様化・複雑化していることを理解する。 ・商品の購入方法、支払い方法の種類と特徴を知る。		
				○	○	○	・消費者信用について理解する。 ・消費者問題が発生する原因を知る。 ・問題商法の現状を知り、なぜ、被害が起こるのかを考える。	
				○		○	・売買契約のトラブルや消費者問題から消費者を救済する法律や制度について理解する。 ・クーリング・オフ制度について理解する。	
	12～2	第5章 高齢期の生活のマネジメント 1 人生100年時代の高齢期 2 年をとると変わること 3 高齢期の生活を支える 4 介護を支える 5 これからの高齢社会	○		○	・人間の発達の完成期であり、同時に現代社会の課題でもある高齢期への関心を高める。 ・高齢者の心身の特徴を知り、高齢期の生活を充実させるための個人的・社会的方策を考える。	10	
				○	○	○	・高齢者の生活課題を把握する。 ・高齢者の自立を支援するための社会保障、社会福祉制度について理解する。 ・介護保険制度の概要を理解する。 ・高齢者の介助を体験し、実践できるようにする。	
	3	第7章 持続可能な社会をつくる 1 地球が危ない 2 ライフスタイル再考 3 めざせ！持続可能な社会 【言語活動】レポート作成	○		○	・日々おこなっている生活の行為が環境へ負荷を及ぼしていることを理解する。 ・SDGsについて理解し、一人一人の行動変容こそが大きな解決の力となることを理解する。	4	
				○	○	○	・持続可能な社会と個々人のライフスタイルの関連を理解させ、実践に結びつけられるようにする。	
				○		○	・持続可能な社会を実現するために必要な法律や制度について理解する。	
			学年末考査	○	○			1

科目名	情報Ⅰ			履修学年	第1学年
				履修形態	必修
				履修単位	2単位
使用教科書 (出版社)	情報ⅠFlex (実教出版株式会社)				
使用教材 (出版社)	情報Ⅰ Flex 学習ノート 全国商業高等学校協会主催 令和8年度版 全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集 3級 全国商業高等学校協会主催 令和8年度版 全商情報処理検定模擬試験問題集 情報基礎				
学習の目標					
<p>情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させ、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、「情報活用の実践力」「情報の科学的な理解」「情報社会に参画する態度」を身に付ける。</p>					
教科担当者から					
<p>教科書を使用した学習だけでなく、たくさんの実習を行います。積極的に取り組みしっかり課題を提出してください。なお、実習については、成果だけではなく実習の過程における努力も評価します。</p>					
評価の観点・方法・割合					
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
規準	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、目的に応じて情報及び情報技術を適切に扱っている。	情報や情報社会における身のまわりの問題を解決するために、情報に関する科学的な見方や考え方を生かすとともに情報モラルを踏まえて、思考を深め、適切に判断し表現している。	情報や情報社会に関心を持ち、身のまわりの問題を解決するために、自ら進んで情報及び情報技術を活用し、社会の情報化の進展に主体的に対応しようとする。		
評価方法	○ 重視するところ				
学習の状況の観察					○
課題の取り組み		○			○
提出物	○	○			
定期考査	○				
観点別学習評価基準 A：十分満足できる状況 B：概ね満足できる状況 C：努力を要する状況					
観点別学習評価	A	B		C	
評価割合 (%)	100～85	84～30		29～0	
観点別評価					
5	4	3	2	1	
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下	

学習内容及び評価基準

学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			学習のねらい（評価のポイント）	時間	
			知	思	主			
前期	4～6	第1章 情報社会と問題解決	○	○		・情報や知識、人工知能（AI）について学ぶ。	1	
		1節 情報社会の特徴 2節 問題解決 3節 情報社会における法規と制度 4節 情報セキュリティ	○	○	○	・情報収集のための手法（ブレンストーミング、検索エンジンの利用、フィールドワーク）について学ぶ。 ・個人情報やプライバシー、要配慮個人情報、個人情報保護法について学ぶ	3	
		第2章 コミュニケーションと情報デザイン		○		・ソーシャルメディアの種類や特徴、匿名の注意点について学ぶ。	10	
		1節 メディアとコミュニケーション 2節 情報のデジタル表現 3節 情報デザイン	○	○	○	・2進数による数の表現、情報量の意味、情報量の単位（ビット、バイト）について学ぶ。		
		○			・コミュニケーションのための情報デザインの概念について学ぶ。			
	6～8	第3章 コンピュータと情報機器	○			・身の回りにある情報機器について学ぶ。 ・コンピュータでの小数部分を含む実数の表現（浮動小数点数）について学ぶ。	20	
1節 コンピュータのしくみ 2節 コンピュータにおける演算		○	○	○				
		前期期末考査				1		
後期	9～10	第4章 プログラミングとモデル化	○			・問題解決の手段や処理の指示書を例に、アルゴリズムについて学ぶ。	8	
		1節 アルゴリズム 2節 プログラム 3節 モデル化 4節 シミュレーションによる問題解決		○	○	・問題解決の手段や処理の指示書を例に、アルゴリズムについて学ぶ。 アルゴリズムの図的表現（フローチャート、アクティビティ図、シーケンス図）について学ぶ。		
		10～12	第5章 ネットワークと情報システム	○	○	○	・生活の中で利用されているさまざまな情報システム（全国瞬時警報システム、金融情報システム、ネットショッピング）について学ぶ。	10
			1節 情報システム 2節 ネットワーク 3節 情報セキュリティ	○	○	○	・LANやWAN、インターネットの通信におけるパケットや通信プロトコルについて学ぶ。 ・インターネットでのデータの送受信のしくみ（IPアドレス、ドメイン名、URL）について学ぶ。	
	1～3	第6章 データベースとデータの活用		○		・データベースの機能であるデータベース管理システム（DBMS）について学ぶ	15	
		1節 データベース 2節 データの活用	○	○	○	・収集したオープンデータの特徴を把握するために基本統計量を求める方法について学ぶ。		
防災学習					・防災について、情報 I の視点から主体的に学習することができる、	1		
		学年末考査				1		

科目名	ホームルーム活動	履修学年	第1学年						
		履修形態	必修						
		履修単位	1単位						
使用教科書 (出版社)	なし								
使用教材 (出版社)	独自のプリント等								
学習の目標									
<p>(1) 生徒一人一人が学級の役割を分担し、話し合いや委員会活動を通して、学級生活や学校生活の向上に努める態度を育てる。</p> <p>(2) 好ましい人間関係を基盤に、生徒一人一人の個人的、社会的適応を図り、自己を生きる能力を育てるとともに、心身ともに健康で安全な生活習慣を身に付けさせる。</p> <p>(3) 学業生活について、個別的、継続的な指導を行い、自主的に学ぼうとする意欲や態度を育てるとともに、よりよい将来の生き方と適切な進路を選択する能力を育てる。</p>									
学習内容									
学期	月	単元名/学習内容	学習のねらい	評価の観点			時間		
前期	4	入学式	ホームルームづくり・学校の生活づくり				1		
		標高ウォーミングアップ	ホームルームづくり・学校の生活づくり				1		
		標高ウォーミングアップ	ホームルームづくり・学校の生活づくり				1		
		前期HR役員選出	ホームルームづくり・学校の生活づくり				1		
	5	スタサブ(登録・説明会)・進路オリ	学業と進路					1	
		スタサブ(到達度テスト振り返り)	学業と進路					1	
		前期生徒総会議案書審議	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1	
		スタサブ(端末ログイン・説明会)	学業と進路					1	
		スタサブ進路(適性診断)	学業と進路					1	
		スタサブ進路(適性診断・未来事典)	学業と進路					1	
		スタサブ進路(適性診断)	学業と進路					1	
		学校祭オリエンテーション	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1	
		6	学校祭クラス会議	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1
			7	学校祭準備(各HR)	ホームルームづくり・学校の生活づくり				1
	7	学校祭準備(各HR)	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1	
		学校祭準備(各HR)	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1	
		学校祭反省	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1	
		夏季休業前LHR	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1	
	8	夏季休業明けLHR	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1	
		9	科目選択説明会(教務)・前期授業評価アンケート	学業と進路				1	
	後期	10	科目選択説明会(教科)	学業と進路				1	
			科目選択進路調べ学習	学業と進路				1	
			後期HR役員選出	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1
			前期終業式LHR	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1
11		後期始業式LHR	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1	
		スタサブ(到達度テスト振り返り)	学業と進路					1	
		後期生徒総会議案書審議	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1	
		スポーツ大会原案審議	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1	
		12	冬季休業前LHR	ホームルームづくり・学校の生活づくり				1	
		1	冬季休業明けLHR	ホームルームづくり・学校の生活づくり				1	
		2	後期授業評価アンケート	学業と進路				1	
		3	卒業式予行LHR	ホームルームづくり・学校の生活づくり				1	
3	後期終業式LHR	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1		
	学級裁量	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1		
	学級裁量	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1		
							35		

科目名	総合的な探究の時間	履修学年	第1学年
		履修形態	必修
		履修単位	1単位
使用教科書 (出版社)	なし		
使用教材 (出版社)	独自プリント等		
学習の目標			
<p>探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方・生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための次の資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1) 探究の過程における課題の発見と解決に必要な知識及び技能。 (2) 自ら課題を立て、情報を集め、整理・分析し、まとめ・表現する力。 (3) 互いのよさを生かしながら、主体的・協働的に探究に取り組み、よりよい社会を実現しようとする態度。</p>			
教科担当者から			
<p>総合的な探究の時間では、様々な体験的学習を通して自分たちが暮らす地域のことを学びます。 さらに、学びを通して「社会を知る」中で、「自分を知る」ことにも繋げていきます。 取り組みは、自ら主体的に学び、その学んだことを他者にわかりやすく伝える活動が中心となります。</p>			
評価の観点・方法・割合			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
規準	探究の過程における課題の発見と解決に必要な知識及び技能が身についている。	自ら課題を立て、情報を集め、整理・分析し、まとめ・表現する力が身についている。	互いのよさを生かしながら、主体的・協働的に探究に取り組み、よりよい社会を実現しようとしている。
評価方法	○ 重視するところ		
学習態度の 観察			○
提出課題の 確認	○		
課題発表の 観察		○	

学習内容及び評価基準

学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			学習のねらい（評価のポイント）	時間
			知	思	主		
前期	5	キャリア講話			○	個々の進路実現のために、どのような学校生活を送るべきか理解する。社会で働くことの意義や多様なキャリアパスについて考え、自分の進路への視野を広げる。	1
	4	防災研修オリエンテーション			○	探究活動の目的や年間の流れを理解し、自らの学びの目標を設定することができる。	1
	5	防災研修出前授業			○	防災の基本知識や災害時の対応について理解し、命を守る意識を高めることができる。	3
後期	6	防災研修探究活動（事前）	○		○	災害の種類や対策について調べ、自分や地域の安全を守る方法を考えることができる。	4
	9	進路ガイダンス				高校卒業後の進路（就職・進学）について理解を深めるとともに、自己を見つめ、能力や適性から卒業後の進路や将来の生き方について深く考える。	1
	9～11	防災研修探究活動（事後）			○	防災に関する学びを整理し、スライドにまとめて分かりやすく伝える力を養う。	7
	10	東京農業大学・町内企業見学事前指導				東京大学見学・町内企業を通じて、卒業後の進路について考えるきっかけを与える。	1
	10	東京農業大学見学			○	大学の学びや研究内容に触れ、自分の進路選択に活かせる視点を養うことができる。大学への理解を深めることで視野を広げ、大学進学を選択肢の1つとして考えられるようにする。	6
	10	町内企業見学			○	地域の企業活動を理解し、社会との関わりや働くことの意義について考えることができる。複数の職場を見学することにより、様々な職業について理解を深める。	6
	10	東京農業大学・町内企業見学事後指導				自己を見つめ、能力や適性から卒業後の進路や将来の生き方について深く考える。進路実現に向けて、高校生活において取り組むべき課題を把握する	1
	11	一日防災学校	○			学んだ防災知識を発表し、他者と意見を交換しながら自分の考えを深めることができる。	4

科目名	メナシ学		履修学年	第1学年
			履修形態	必修
			履修単位	1単位
使用教科書 (出版社)	なし			
使用教材 (出版社)	独自プリント等			
学習の目標				
<p>探究の見方・考え方を働かせ、地域が抱える課題に向き合い、地域の自然や歴史文化と産業についての探究活動に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するために行動し、社会に貢献しようとする態度を育てる。</p>				
教科担当者から				
<p>メナシ学では自然・文化の体験や地域課題を通じた学びやから持続可能な社会を考え、地域の社会課題を探究します。取り組みは、自ら主体的に学び、その学んだことを他者にわかりやすく伝える活動が中心となります。</p>				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
規準	探究の過程における課題の発見と解決に必要な知識及び技能が身についている。	自ら課題を立て、情報を集め、整理・分析し、まとめ・表現する力が身についている。	互いのよさを生かしながら、主体的・協働的に探究に取り組み、よりよい社会を実現しようとしている。	
評価方法	○ 重視するところ			
学習態度の 観察			○	
提出課題の 確認	○			
課題発表の 観察		○		

学習内容及び評価基準

学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			学習のねらい（評価のポイント）	時間
			知	思	主		
前期	5	メナシ学オリエンテーション			○	メナシ学の目的や年間の流れを理解し、地域探究への意欲を高め、自らの学びの目標を設定することができる。	1
	5	探究活動オリエンテーション			○	探究活動の基礎について学び、自ら課題を見出し、解決策を考える道筋について理解することができる。	1
	5	サーモンパーク「サケの聖地」	○			サケの生態や地域文化におけるサケの役割について学び、地域資源の大切さを理解することができる。	3
	5	標津町番屋ガイドウォーク	○			番屋の歴史や地域の暮らしに触れ、地域文化の特徴を理解し、地域の魅力を発見することができる。	
	6	帆立の荷揚げ見学			○	標津町の水産業の現状や課題について学び、帆立の荷揚げ見学を行い、水産業について理解を深めることができる。	2
	6	探究活動（野付巡検）			○	野付半島の自然環境や生態系について現地調査を行い、地域の自然保護の重要性を考えることができる。	6
	7	野付巡検（スライド作成・発表）			○	現地での観察や調査を通して、地域環境の特徴や課題を見つけ出し、課題解決の視点を養うことができる。	7
7	サクラマスの遡上見学			○	サクラマスの遡上について体験的に学び、体験後には大学生とのフィードバックを行い、体験を振り返ることができる。	4	
後期	10	ポー川巡検	○			ポー川周辺の自然や文化遺産を調査し、地域と自然環境の関わりについて理解を深めることができる。	4
	11	ポー川巡検（まとめ）			○	調査結果を振り返り、ポー川巡検で得た学びを整理・分析し、地域課題への理解を深めることができる。	1
	11	アイヌ文化・アイヌ紋様について			○	アイヌ文化や紋様の意味を学び、多様な文化への理解と尊重の態度を養うことができる。	4
	11	3年生水産教育発表			○	3年生の探究活動の発表を見て、今後の自分たちの探究活動に活かすことができる。	2